



寄居城北高校での活動

「よりの」の会では、活動の一環として、寄居城北高校で朗読の指導を月に2回行っています。指導を受けるのは、JRC部（ジュニア・レッド・クロスII青少年赤十字）の皆さん。JRC部は福祉活動ボランティアを中心に活動し、これまで交通安全PR用品の配布や募金活動などを行ってきました。部に所属

Pick Up!

「よりの」の会長
室岡茂子 さん



「よりの」の会は、寄居町社会福祉協議会が主催した朗読ボランティア養成講座を経て、昭和61年1月に発足しました。以来、広報よりいなどの刊行物を朗読し、目の不自由な方に提供しているほか、町内の特別養護老人ホームや障害者施設で、月に1、2回程度、対面での朗読会を行っています（現在はコロナ禍のためオンラインで実施）。

「わたしたちが大切にしていることは『声の広報（広報よりのの音声版）』をお届けしている利用者の皆さんとの交流です。今はコロナ禍で実施できていませんが、目の不自由な方は外出の機会が少なく、毎回楽しみにしてくれていました」

そう話す「よりの」の会・会長の室岡茂子さん（本村）は、30代のとき、友人の方からの誘いで朗読ボランティア養成講座に参加。昭和61年に、発足して間もない「よりの」の会の会員となります。

「活動を始めたころは、とにかく先生が厳しかったのを覚えています。できるようになるまで一字一句直されました」と当時を振り返ります。

「活動当初、録音環境はあまり



する皆さんは医療や福祉に関する職に就きたいと考えている方が多く、将来に生かせる部活動としてJRC部を選んだといいます。

田中翔さん（2年・本庄市）は「小・中学校と、障害のあるクラスメイトと友達でした。障害があるからといって特別ではなく自分にとっては普通の存在。しかし、この部活動を選んだのはその友達の影響もあります」と話してくれました。

また、海老原愛翔さん（1年・末野4）は「将来は看護師になりたいと思っています。この部活でのボランティアを通して、高齢の方や障害のある方と関わっていくことで目標とする看護師に近づけると思いました」と話してくれました。

朗読の指導は、まず発声練習を行い、教材となる物語を一人ずつ読み上げていきます。「よりの」の会は、生徒の朗読に対し、朗読ならではの読み方（十頭は「じつとう」等）や言葉のイントネーション、間の取り方など、表現の方法について細かく指導を行っていました。

よくありませんでした。かわせみ荘での録音では、よく館内放送が入ってしまいました。自宅での録音の際は、柱時計の音や鳥の鳴き声、電車・自動車の音等が気になったものです」

時代の変化とともに録音環境も変わっていったといいます。

「保健福祉総合センター（ユウネス）ができて、朗読室に録音ブースをつくっていただいたことで、録音環境は非常によくなりました。当初はカセットテープへの録音でしたが、時代とともに録音方法も変化し、デジタル化への対応に苦労しました。カセットテープとCDの両方を作成していた時期もありましたので、それに比べ、今は少し楽になりました」

現在はデジタル録音機とパソ



▲ユウネスの録音ブース

コンを駆使し、利用者の方へできるだけ早く届けるよう努めていると話します。

室岡さんは「持続可能な開発目標（SDGs）の3番目に『すべての人に健康と福祉を』とあります。わたしたちの活動によって少しでもそういった社会に近づいていってほしいと思います」と今後の目標を語ります。

「朗読ボランティアに限らず、ボランティア活動というのは、人様のために奉仕するだけではなく、自分自身にも喜びをもたらしてくれるものです。また、この活動を通して、さまざまな経験をさせていただき、多くのものを得たように思います」と自身の経験を振り返りながら、ボランティア活動への思いを話してくれました。



読み聞かせをした小学校から贈られた感謝の手紙。このような「声」が活動の励みになるといいます。

VOICE



JRC部 部長
小澤日和さん
（3年・秩父市）

普段と違うイントネーションや発音で気を付けなければいけないところがたくさんあって、朗読の難しさを知りました。この活動をするまで、障害のある人のために活動してくださっている方がいることを知りませんでした。このような活動は障害のある方々にとって、とてもありがたいことだと思います。また、わたしたちもその活動に関わることができて、とてもよい経験になっています。

VOICE



JRC部 顧問
大澤篤史 先生

この活動のきっかけは寄居町社会福祉協議会で室岡さんとお会いしたことでした。頑張れば高校生でもできるようになるのではないかと思います。朗読の指導をお願いしました。先生方に教わるうちにだんだんと朗読ボランティアの活動の大切さが、わたしも生徒も分かってきました。今は、将来何らかの場面で役に立つことができないかなという気持ちで朗読の練習をしているところです。生徒には、この部活動を通して障害者の方やボランティアの仕事に触れ、実際にやってみることで皆さんの経験を積んでもらいたいと思っています。